



本校では、「胆振東部地震」の出来事を教訓として意識していくためにも、今年度から「一日防災学校」を行うこととしました。これは、学校の授業の中に防災の要素を取り入れ、児童が防災について考える一日とし、地震やその他の災害から身を守るための学習を集中的に行う取組です。当日は、道や町各関係機関の協力を得て、避難訓練や各学年で防災について考えました。これを機に、いざというときに慌てない行動が取れる子供達になつてほしいと願っています。

(中富良野町立中富良野小学校)

No. 133 (令和元年 11 月 1 日)

お も な 内 容

ページ

随想	1
教育講演会	2
研修講座寸描	3～7
出前講座寸描	7～8
心に残る授業 その80	9
パソコン実技研修講座の紹介	9
研究室だより「今、研究室では」	10

随 想

上野法美先生のこと



上川教育研修センター

副 所 長 福 家 尚

「私の夢は、娘をオリンピック選手にすることです。」

三十四年前、オホーツクの湧別町で上野法美先生に出会った頃、おつしやっていた言葉です。当時娘さんは湧別小学校の一年一組。私は隣の二組の担任でした。

正直この言葉にびっくりしました。こんな小さな子の将来をもう決めているということに驚き、目指す夢の壮大さに圧倒されました。

その頃上野先生は、湧別町で整骨院を営む傍ら、町の柔道場で子供達の指導に当たっておられたのです。二人の娘さんも柔道に励んでいました。

長女は雅恵さん、アテネ・北京五輪連覇の金メダリストです。次女が順恵さん、ロンドン五輪の銅メダリストです。

お父さんと娘さんたちの夢は見事に実現しました。しかも、オリンピックの大会で輝かしい成果を挙げて。そこには本人たちの想像を絶する努力と鍛錬はもちろんのこと、御家族の力強い支えがありました。先生と奥様の和香子さんの指導者としての親としての支えは、二人にとってどれだけ心強かったことでしょう。

私が校長の職にあった時は、朝会や卒業式の式辞などで、上野先生御家族から学んだことを話し、「夢をもち努力していくこと」の大切さについて子供達に伝えました。

さらに、上野先生の当時の夢はもう一つありました。

それは、オホーツクを臨む湧別で、海をテーマにした歌を作ることです。上野先生は地域の自然を愛する作詞作曲家でもありました。私も先生のバンドに仲間入りさせていただき、オホーツクのオリ

ジナル曲をコンサートや地域のイベントなどで演奏しました。

上野家とは家族ぐるみのお付き合いもさせていただきました。我が家で寝てしまった小さな雅恵さんを、帰りにおんぶしたことがありますが、見かけよりずっと重くがっしりとしていて驚いたことを覚えていいます。その頃から鍛えられていたのだと思います。

先生はその後、湧別から旭川の病院に転勤されました。仲間で心から別れを惜しんだものです。その時のことを先生が書いた「旅立ちの朝 みんなの思い 戸惑いがちな君の瞳を 僕は忘れない」という詩に私が曲を付けた歌は本当に忘れられない曲となっています。

上野先生のことを「先生」と呼ぶのは、整骨院の先生だったからだけではありません。私にとって人生の「師」でした。友人でもあり、兄でもあった上野先生が今年五月二十九日に亡くなりました。六十六歳、あまりにも早過ぎる「旅立ちの朝」でした。心のどこかにぽっかりと穴が空いた気持ちで、毎日部屋にある先生の写真を見ています。

お通夜では、雅恵さん、順恵さん、そして旭川で産まれた巴恵さんに久しぶりに会えました。第一線の選手として大活躍された三人の娘さんたちは現在引退し、それぞれの職場や地域などで柔道を指導し、後進の育成に当たっているそうです。

奥様や三姉妹の指導を受けながら、きっと、必ずや第二の雅恵さんたちが育っていくことでしょう。そして上野先生の夢を未来につなげていくことでしょう。

7月9日 夏季拡大研究会
7月26日 センター組合教育委員会
7月29日～8月2日 研究室夏季集中研修
8月1日・2日 センター組合協議会定例会
8月22日 道研連夏季所員研
8月29日・30日 道研連研究発表大会空知大会
11月1日 センターだより第133号発行
※ 毎週火曜日 定例研究会
※ 随時 研修講座講師打合せ会議

センター日誌



本校の学校祭では、生徒が主体的・創造的・協同的に取り組む態度を育てることを目的として、学年ごとに創作活動を行っています。今年度は第一学年が「教室テーマ展示」、第二・三学年が「舞台発表」に取り組みました。第三学年は、ミュージカル「リトルマーメイド」に挑戦し、全員が一人一役を担い、個々の能力を発揮しながら一致団結して感動の舞台を創り上げました。

(旭川市立東陽中学校)

令和元年八月一日 教育講演会

「新小学校学習指導要領外国語教育について、 全面実施までに、今、取り組みたいこと」

文部科学省初等中等教育局

視学官 直山 木綿子 氏



【講演の概要】

☆外国語教育が変わる☆

教育課程が変わる。教育課程が変わると、目標が変わる。どう変わるかというと、小学校が変わる。中学年で外国語活動が、高学年で外国語科という教科が始まる。小学校が大きく変わると、中学校も変わる。小学校と中学校が変わると、高校も変わる。小中高が変わると、当然大学も変わる。来年度の四月から、新学習指導要領、小学校が全面実施。日本の外国語教育が大きく変わる。変わるというが、外国語教育の根本は変わらない。現行の学習指導要領、その前の指導要領、来年度から始まる指導要領も、

外国語教育の趣旨ねらいは変わらない。子供達が、言語や文化について、理解を深めること。そして、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めること。意欲を高めるだけではなくて、実際に外国語を使ってコミュニケーションを図る力をつけることである。

☆教科の前の体験の大切さ☆

教科として外国語を学習する前に、体験をしておくことが大切。国語という教科は、小学校一年生になったら、体系的、系統的に教科として学習することとなる。しかし、生まれてから一年生に上がるまで、子供達は母語を使ってコミュニケーションを図る体験を重ねる。英語教育は、中学校一年生から始まる。その前に、外国語（英語）で体験することがなかった。だから、小学校の五年生と六年生に、外国語活動という、外国語を使ってコミュニケーションを体験する活動が入った。そして、その成果がとて上がった。何より、英語への学習意欲を高めて中学校へ上がるという数値が出た。まさに、教科として学習する前に英語でコミュニケーションを図る体験をしておくことは、有効だということを小学校の先生が

証明をしてくださった。ところが、高学年での体験が、やはり子供の発達段階からは辛く、足踏みをする子、つまらないと感じる子がいる。そこで、三、四年生に外国語活動を高学年では体系的、系統的に学習をする教科というものに、来年度から動く。

☆実施した調査から☆

平成二十五年度に学習指導要領実施状況調査を実施した。中学二年生に行った英語の問題、A問題とB問題の結果から、思考を伴う力、思考する力が必要であることが明確になった。今年度から中学校三年生には、学力調査（英語）が入り、「聞く・読む・話す・書く」の四技能を測るために実施している。他の技能に比べ、「聞く」技能に高い結果が出ている。また、子供達が何とかしようとする意欲が高い。これは、小学校の外国語活動の経験が大きいと分析している。ところが、小学校では音声中心で伝え合う経験をしており、その音声は不確かな部分が多く、点数に結び付かないという結果が出ている。きちんと文法を理解させないこと。文法解説でない、文法の指導の具体の在り方を国が資料を使って説明をしていかないと、という話をしている。

☆思考・判断・表現☆

この度、新学習指導要領では、子供に身に付けさせたい資質能力である、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で目標と内容が整理されている。この目標の柱に沿って学習評価の観点が示された。つまり、

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」である。四月から「思考・判断・表現」の観点で子供を評価する。ということは、子供が思考している場面がないと、この観点で見取ることができない。発信の場面での思考とは：コミュニケーションの目的場面、状況に応じて、「どんなこと言おうかな」と子供が内容を考え、その内容を伝えるために、今までに習った語句や表現のうち、「どれを使ったら良いかな」と子供が考えることである。もう一つ、受信の場面での思考とは：「何を言っているのかな」と子供が今までに学んだ知識・技能を使いながら、「こういうことを言っているのと違うかな」と類推することである。これらが、まさに外国語の授業での思考の場面である。これらの場面を授業の中に取り入れてもらうため、新学習指導要領の目標に「言語活動」という言葉が入っている。この言語活動とは、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動」（小学校外国語活動・外国語科 研修ガイドブックより）のことである。

来年度四月から全面実施。あと八か月、子供と本当の気持ち、考えを伝え合う、子供の既習語句や表現で簡単なことでやり取りをする。そうやっていくうちに先生方の英語力は付く。英語の壁はどんどん低くなる。どうぞ週一回あるいは週二回、その時間にこの言語活動子供とたくさんやってほしい。文部科学省も来年度の四月までにまだまだ条件整備をしつかりし、皆さんと一緒にスムーズな全面実施を迎えたいと思っている。

研修講座寸描

講座の様子から

講義・提言からは指導支援の基盤を学びました。研究授業では、一人ひとりに対して育む資質能力を見据えた上で、この授業が担っているもの」が明確にされている点、特性に応じた教材や指導の細やかな工夫が大変勉強になりました。
(和寒町立和寒小学校 濱田 愛)



1 特別支援教育 5/8(水)・6/5(水)

講師

日小田泰昭 北海道立特別支援
教育センター
古賀 千尋 (美瑛東小 教諭)
塩谷 弘子 (愛宕小 教諭)
松岡ゆきこ (永山中 教諭)

3 書写実技 6/7(金)

講師

矢野 敏文 北海道教育大学
岩見沢校 特任教授
守家 純二 (永山西小主幹教諭)

講義・実技研修では、甲骨文字と現在の漢字を相関させたり、書いた毛筆の字を相互に評価し合ったりしながら、文字や書写の奥深さを学びました。研究授業では、児童の視覚に訴える効果的な教材や指導法を知ることができました。
(美瑛町立美馬牛小学校 土崎 美香)



4 学校経営Ⅰ 6/12(水)

講師

笠井 稔雄 北海道教育大学
教職大学院 教授
竹森 茂雄 (富良野東中 校長)
古高 誠志 (近文小 校長)
菅原 整 (明星中 校長)



講義では、リーダーシップとマネージメントを明確に区別して経営することの重要性、特に「感情労働」という言葉は私にとって新たな視点をいただいた示唆に富む内容でした。交流でもいい刺激を受け、貴重な研修機会となりました。
(下川町立下川小学校 堀内 隆功)

5 学校経営Ⅱ 6/13(木)

講師

安達 啓一 (東川中 校長)
鈴木 伸行 (鷹栖小 校長)
工藤 亘 (六合中 校長)
石前 聖香 (向陵小 校長)

Society5.0に向けて取り組むべき政策の方向性について理解を深めるとともに、業務改善やカリキュラム・マネジメント等、様々な実践について交流することができ、学校経営を支える教頭の役割を学ぶ有意義な研修となりました。御指導ありがとうございました。
(比布町立比布中学校 石本 邦美)



6 読書活動 6/18 (火)

松浦 修司 (末広北小 教頭)
吉井 華菜 (永山南小 教諭)

講師



会場には参加者の熱意が溢れていました。年間の取組を網羅した講義資料や、調べ方を意識しながら熱心に図書に触れる児童からも多くのことを学びました。実践交流では、多くのヒントをいただき、今後が楽しみになる講座でした。講師の先生をはじめ、会場校の皆様ありがとうございました。

(鷹栖町立北野小学校 山川 昌子)

7 図工・美術科指導 (実技) 6/19 (水)

南部 正人 (北海道教育大学 旭川校 教授)
山路 藍 (広陵中 教諭)

講師



中一の研究授業を参観させていただきました。グループワークによってアイデアを深化・発展させる手法や留意点などについて協議しました。直ぐに授業で活用できる有意義な研修でした。講義・実技研も関連する内容で大変参考になりました。御指導ありがとうございました。

(名寄市立智恵文中学校 茶谷 裕樹)

8 体育科指導 (実技) 6/26 (水)

小出 高義 (北海道教育大学 旭川校 准教授)
梅田 英明 (陵雲小 教諭)

講師

(美深町立美深中学校 松藤 和志)

講師の「次の運動への期待感があると子供はよく動く。」という言葉がまさにその通りだなと感じました。御指導ありがとうございました。

研究授業では体づくり運動が行われ、児童が生き生きと活動している姿が印象的でした。午後の実技では、実践的なアクティビティを体験し、自分自身が体づくり運動の楽しさを知ることができたと感じました。体を動かすことの楽しさを子供に伝えたいです。また、



9 保健安全指導 7/3 (水)

菅藤真由美 (忠和中 校長)
太田 充紀 (神楽小 教諭)

講師

講話の中で保健安全指導の在り方、防災の考え方を具体的に示していただき、本校での対応を振り返る良い機会となりました。また、事例検討の際に、地域や規模に応じた対応を考えることができました。御指導ありがとうございました。

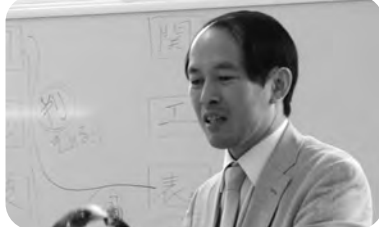
(中川町立中川中学校 大高彩都子)



10 音楽科指導(実技) 7/4(木)

芳賀 均
中坪みゆき (旭川校 講師)
前場 祥子 (緑新小 教諭)

講師



実際の授業を見学させていただき、ワークシート等の活用など、児童目線での活動の仕方を具体的に考えることができました。リコーダーや打楽器などの奏法を改めて学ぶことができました。ありがとうございました。

(東神楽町立東聖小学校 裏野 結夏)

11 複式教育 7/12(金)

講師
大津こずえ (美馬牛小 教諭)
長原 理恵 (江丹別小 教諭)



講義や提言の中で複式教育の在り方を具体的に示して頂き、学習指導等について深く学ぶことができました。また、研究授業の参観や協議から、今後の実践に役立つ授業展開の工夫を考えることができました。ありがとうございました。

(占冠村立占冠中央小学校 鈴木夕起子)

16 幼保小連携教育 7/29(月)

講師
片桐 正敏 (北海道教育大学 旭川校 准教授)
北島 裕二 (北海道教育大学附属 旭川幼稚園 副園長)
西山あずさ (東五条小 教諭)

講師

木村恵理子

(認定こども園のほな保育園)

講座を通し、子供達が楽しく小学校に通うため日々の成長や発達過程など、その子の特性を的確に小学校へ引き継ぐ大切さを改めて認識することができました。協議では小学校との交流方法等の具体的な情報交換ができた良い機会となりました。



20 学校事務実務 8/5(月)

講師
佐藤 遼 (北海道教育庁 教育職員局教職員事務課)
盛多 隆 (釧路中 事務職員)
木村 達也 (永山中 事務職員)
天野 修 (青雲小 事務職員)

講師

学校事務の全国的な情勢や、研修の意義、保護者負担軽減について学び、今後の学校事務について考えるきっかけとなりました。また、予算の現状や、事務職員の取組について情報交流することで、大変有意義な時間になりました。ありがとうございました。

(旭川市立忠和中学校 上田 桂司)



22 学校力向上対策 8/8 (木)

水 上 丈実
工 藤 亘
畠 山 順
(北海道教育大学
教職大学院 教授
校長)
(六合中 校長)
(陵雲小 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ



新学習指導要領に向けたカリキュラム・マネジメントについての理解が深まり、実現への目途がたちました。現段階で準備できることと、教科書が採択されたいらすべきことの手順が見え、学校力向上につなげることができそうです。

(旭川市立神居中学校 藤井 宏二)



23 いじめ・不登校 8/8 (木)

田 中 睦
谷 口 義高
(公立学校スクール
カウンセラー)
(広陵中 主幹教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

講話や実践的なアクティビティを通して、いじめの初期対応を具体的に、どのような順序で行えばよいのかが明確になりました。どのような事例に対しても、組織的に、生徒にとってよりよい解決策を考えたいと思います。

(幌加内町立幌加内中学校

宍戸 広太)



15 生徒指導 7/29 (月)・8/26 (月)

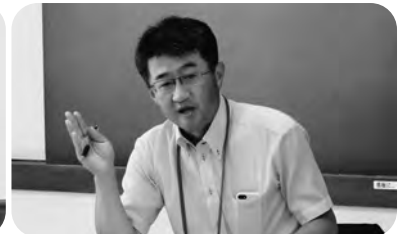
佐藤 哲雄
中川 明
谷本 匡史
(東光中 校長)
(永山西小 教諭)
(東光中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

授業を参観させていただきましたが、普段の学習規律や学級経営がとても大切なことに、改めて感じさせられました。授業だけでなく普段の生活を大切にしたいと思っています。ありがとうございました。

(美深町立美深小学校

松下 和生)



17 道徳科指導 7/30 (火)・8/26 (月)

水 上 丈実
内 藤 奏子
伊 藤 陽子
國 井 裕之
(北海道教育大学
教職大学院 教授
(東鷹栖中 教頭)
(近文第二小 教諭)
(光陽中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

この度の研修は、講義、提言、演習、授業参観、研究協議と充実した内容でした。特に小中学校の授業参観を通して、子供の発達段階に応じた授業構築をしていくことの大切さを改めて実感しました。

ありがとうございます。

(旭川市立神居東中学校

志満香奈枝)



18 理科指導 7/30(火)・8/27(火)

講師Ⅱ
 安藤 秀俊 北海道教育大学 旭川校 教授
 梶田 千晶 (高台小 主幹教諭)
 小山内亜里紗 (西御料地小 教諭)
 栄 耕平 (東明中 教諭)



講話と提言の中で、特に生命領域の内容や科学的な見方・考え方について理解を深めることができました。また、研究授業と協議では身に付けさせたい問題解決能力と指導方法を学ぶことができました。御指導ありがとうございました。(幌加内町立幌加内小学校 細山 友司)

愛宕中学校「構成的グループエンカウンター」 6/20 (木)



【講師：井上 重美(スクールカウンセラー)】
講座の中で、「構成的グループエンカウンター」の目的や進め方について理解を深めることができました。また、エクササイズを体験し、実際の学級で行った場合の具体的なイメージをもつことができました。御指導いただき、ありがとうございました。(旭川市立愛宕中学校 櫻井 瞳)

西神楽中学校「道徳授業の在り方・評価」 6/11 (火)



【講師：内藤 奏子(東鷹栖中 教頭)】
誰の気持ちで考えさせたらよいのか、心の揺れ動きをつかむ、生き方として自分に問わせること、と具体的に指導法を示していただいたことにより、ねらいからぶれない指導について深く考えることができました。ありがとうございました。(旭川市立西神楽中学校 佐々木 彩)

出前講座寸描

朝日中学校「思考ツールの活用」 6/27 (木)



【講師：植村 博行(緑が丘小 主幹教諭)】
思考ツールの効果や授業実践が具体的に示され大変勉強になりました。また思考ツールを活用した体験型研修は生徒目線の活動ができ、思考ツールの良さを改めて実感することができました。御指導ありがとうございました。(士別市立朝日中学校 杉岡 浩行)

東町小学校「プログラミング教育」 6/21 (金)



【講師：佐々木 玲(北光小 教諭)】
プログラミング教育とは何かと具体的に示して頂くとともに、スクラッチやプログラムの研修教材を生かし、論理的思考を身に付けるための学習活動を低学年からステップを踏んで進めていくことが分かりました。ありがとうございました。(旭川市立東町小学校 吉川 和江)

西神楽小学校「プログラミング教育」 7/9 (火)



【講師：若松 聡(台場小 教諭)】
講話の中でプログラミング教育の概要を分かりやすく示していただき、学習指導要領における位置付けが分かりました。また、実際にプログラミングの体験をすることで、子供の気持ちになって学習活動を考えてことができました。(旭川市立西神楽小学校 角家 元)

美馬牛中学校「道徳授業の在り方・評価」 7/2 (火)



【講師：則末 俊介(東神楽中 教諭)】
研修を通して、道徳指導の在り方・評価の在り方を具体的に学ぶことができました。特に評価に関わっている不安や迷いを減らすことができました。いただいた沢山の資料も今後活かしていきたいと思えます。(美瑛町立美馬牛中学校 竹中 大輔)

末広小学校「木版画」 7/19 (金)



【講師：川原 潤(中央中 教諭)】
木版画の指導方法について、児童生徒作品展や川原先生の実践された例を見せていただきながら指導していただきました。用具材料の取り扱いについての説明は、二期生すぐに活用できる内容でした。御指導ありがとうございました。
(旭川市立末広小学校 奥山 直樹)

宇園別小学校「プログラミング教育」 7/18 (木)



【講師：伊藤 健(下川警察研修センター 指導員)】
プログラミング教育とは何か、どのように計画していけばよいのかを示していただき、来年度からの実施の見通しが立ちました。また、ソフトの扱い方も教えていただき、即、実践に結びつけられそうです。御指導ありがとうございました。
(当麻町立宇園別小学校 長谷田 徹)

愛宕東小学校「器械運動」 8/19 (月)



【講師：中山 敬史(永山西小 教諭)】
私自身、今回の研修で中山先生の指導の元、鉄棒の回転技が二十分で出来るようになりました。こつを伝える重要性を実感しました。できるようになったら楽しいという体験を、多くの子供達に伝えられるよう、研究に励んでいきます。
(旭川市立愛宕東小学校 倉橋 仁司)

東川第一小学校「道徳授業の在り方・評価」 7/25 (木)



【講師：山本 浩貴(東五条小 教諭)】
「考え、議論する道徳」がどのようなのかを具体的に示していただき、読み取りをするのではなく、自分の考え方や感じ方を明確にすることの大切さを知ることができ、大変勉強になりました。御指導ありがとうございました。
(東川町立東川第一小学校 永森麻奈美)

正和小学校「プログラミング教育」 8/22 (木)



【講師：若松 聡(台場小 教諭)】
新学習指導要領で必修化となったプログラミング教育について学習させていただきました。「スクラッチ」を使って実際に作図をする活動では、算数での実践例を紹介していただきながら、児童の目線で楽しく学ぶことができました。
(旭川市立正和小学校 高見 綾香)

当麻中学校「道徳授業の在り方・評価」 8/21 (水)



【講師：牧 健一(土別南小 教頭)】
「考え議論する」ことを実際に取り組み、問題解決的な道徳の学習の在り方を丁寧に示していただき、学びが深まりました。今後、道徳指導に生かしていけます。御指導いただき、ありがとうございます。
(当麻町立当麻中学校 松田 奈々)

旭川中学校「合理的配慮と具体例」 8/27 (火)



【講師：目良 久美(美瑛町教育委員会 特別支援教育担当課長補佐)】
合理的配慮の具体例について、目良先生の経験をもとに、詳しく分かりやすく講義していただきました。快活な口調で五十時間があつという間に過ぎました。貴重なお話をしていただき、ありがとうございます。
(旭川市立旭川中学校 森 健二)

永山中学校「道徳授業の在り方・評価」 8/23 (金)



【講師：山本 浩貴(東五条小 教諭)】
講義の中で、道徳科の授業のポイントを示していただき、日常の授業で感じていた困り感が和らぎました。また、実践例を通して紹介いただいた多様な指導法は今後の授業改善に生かしたいと思います。御指導ありがとうございました。
(旭川市立永山中学校 小幡 俊夫)

心に残る授業

その 80

上川教育局義務教育
指導班主任指導主事
藤本 博

これからの社会を生き抜く子供達には、社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせ、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考えるなど、よりよい社会の創り手となる力を身に付けることが大切です。

そのため、各学校においては、子供達が、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、学習の質を一層高める授業改善を進めていくことが求められています。

私が参観した心に残る授業は、子供が課題の解決に向けて主体的に取り組む姿を垣間見ることのできた中学校第三学年理科「化学変化と原子・分子」の授業です。

授業は「電池を改良して豆電球をより光らせる実験」で、子供達は、

これまでの既習事項を生かして課題を設定し、実験計画と考察を検討して改善する内容でした。教科担任は、子供が実験・観察に目的意識をもつて取り組めるよう演示実験により、豆電球の明るさに違いが見られる電池をいくつか提示し、全ての子供に、これまでの経験や知識から、明るく光らせるための仮説を設定させていました。さらに、グループ活動では、仮説に基づき実験方法を検討したり改善したりするなど、ねらいを明確にした話し合いを行わせるとともに、机間指導では、子供が考えを検討して改善するきっかけとなるよう、子供の思考を促す助言や問い返しを意図的に行っていました。この授業のように、見いだした問題から子供自らが課題を設定し、その課題解決に向けて主体的・協働的に学習することは、科学的な知識・技能の定着のほか、科学的に探究する能力の基礎を育て、科学的に探究しようとする意欲を高める上でも極めて大切です。

これからも、管内の多くの先生方の授業から、子供が主体的に学びを進める姿や手立ての工夫を探ってきたいと思います。

パソコン実技
研修講座レポート

当研修センターパソコン実技研修講座は、七講座（回数にして十七回）を開催しています。今年度はPCをリニューアルし、講師用も含めWindowsタブレット十台、管理用にWindowsサーバー一台を導入、さらに授業支援としてScratch、EduCクラスをインストールし、学校に近い環境といたしました。また、iPadも十五台あり、こちらについては希望により貸出も実施しております（詳しくは当センターまでお知らせください）。

講座は全七講座のうち、三講座はエクセルに関する内容、一講座を小学校プログラミング教育、そして残り三講座をタブレットに関する内容を実施しています。エクセルに関する講座は、昨年度から個別課題解決を午後半日日程で実施し、それぞれの学校で使用しているファイルを受講者に持参いただき、疑問点や課題をその場で講師が指導する内容となっております。なお、入門および活用はこれまで通りの内容で、受講者の幅広いニーズに対応できるよう心掛け、翌日の校務から役立つよう心がけています。

タブレットPCに関する講座については、「入門」、「授業」、「校務」と三講座を開講しています。特に授業での活用についての講座はこれまで同様高い人気となっています。今後も、これから授業実践に活用できるような使用方法やアプリの

紹介を行い、先生方のニーズにお応えできるようにしていきます。

今年度から新規開設した「授業のためのプログラミング入門」は計二回実施しています。六月に開催した一回目では、予定人数九名を大幅に超える受講希望者だったため、急遽会場を旭川市立西神楽中学校に変更し対応いたしました。内容については、小学校プログラミング教育について概要説明とScratchなどのプログラミングを、実際に体験していただきました。先生方の不安感が少しでもなくなるような内容になるように工夫いたしました。

また、今年度は各学校から小学校プログラミング教育についての出前講座の依頼が多数あり、好評を得ています。短時間ではありますが、センターの講座と同じような内容になるように配慮し、実施しています。

タブレットPCやプログラミングで授業改善、エクセルやクラウドで校務の効率化を目指す、当センターPC室よりICTの面から「働き方改革」をバックアップしていくことができればと考えていますので、今後とも皆様の受講を期待しています。



Windows タブレットにリニューアル

第17次研究3年次

低学年における対話的な学びを目指して

研究主題「深い学びを実現する学習指導の在り方」の解明に向け、センター所員が研究授業を行いました。

研究員2年目 永山南小学校 吉野 和気

小学校第2学年 図画工作科「ともだち ハウス」

〈授業の概要〉

児童が試しの活動から想像を広げ、発想豊かに表すことができるように単元を構成しました。表したいことを見付けたり、どのように表すかについて考えたりすることができるように、構想シートを使い「ともだち」との関連性を捉えて家を構想できるようにしました。さらに、交流場面を設定し、作品を具体的にイメージすることを目指しました。

時	単元の展開【主な学習活動】
1	・例示したともだちハウスの鑑賞を通して、題材の見通しをもつ。
2	・題材を通した課題を設定する。 ・小さな「ともだち」を作る。
	題材を通した課題を提示し、見通しをもたせる場面
3	【授業公開場面】 ・「ともだち」のイメージから、試しに作る。 ・家に作るものの交流をする。
	試しの活動と対話を通して、想像や考えを広げる場面
4	・箱や材料の色や形などを基に、家に作りたいものを考え、組み合わせ方や材料を工夫し、効果を確かめながら作る。
5	「ともだち」が過ごす場面を想像し、材料の色や形、材質を確かめ制作する場面
6	・友人の作品を見て、形や色、表し方の面白さを感じ取る。

深い学びを充実させるための手立て

〈資質・能力が活用・発揮される場面の設定〉

「ともだち」が喜んでくれるような家を想像し、立体として表すために、題材を通した課題を設定するとともに、常にゴールを意識させて活動に取り組みせました。見通しをもたせ、構想を固めさせ、その構想を生かして制作させ、次に生かす場面を考えさせるという一連の流れを通して、資質・能力を発揮させることを目指しました。

対話の目的

〈論点の明確化〉

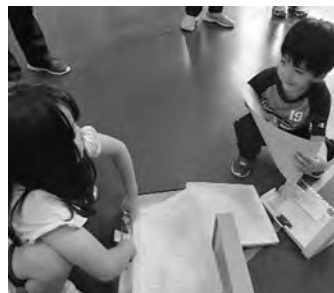
「ともだち」が喜んでくれるような家にするために、「ともだちシート」を活用して、常に意識できるようにしました。また、導入場面で「ともだち」に合わない家を提示することで、題材の目的をより明確に捉えさせる手立てとしました。



対話の方法

〈場や形態の工夫〉

「ともだち」の性格や好みなどのタイプに合わせて「ともだちシート」を色分けしました。作るものに悩んでいる子は同じ色同士で交流、ほかのアイデアが欲しい場合は違う色の子と交流するなど、目的に応じて対話できるようにしました。



発行日 令和元年十一月一日
責任者 上川教育研修センター
印刷所 旭川市六条通四丁目
株 佐藤 電話 〇一六六二四二五〇一
式 会社 あい わ 保 保 保
社 保 保 保

※この用紙は再生紙（古紙70％）を使用しています。